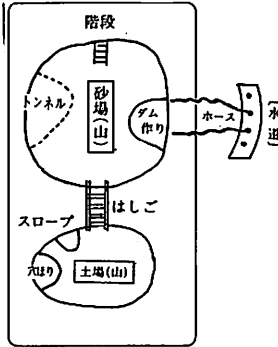


比較研究

「生活科の研究授業」はどこが違うか

「先生、砂の中に入っているの」
たとえ許可しても、子どもは砂の上を通り過ぎるだけ。服が汚れるからである。先生方は、自分たち大人の都合で子どもから経験の世界とそれを表現する言葉を奪う危険性に気付いた。

単元設定の理由の欄に、「土、砂、水との触れ合いの中で子供達は『きたない』『かたい』『きれいな』『やわらかい』『おもしろい』『さうらう』『べとべと』等を身体を通して感じることができよう」とある。
いずれも文字のみでは意味を確定できない言葉。五感で感得した経験と関係づけることから意味が生じる記号。ただし、それは通常、学校の外の遊びで身につけるはずの感覚でもある。
しかし、それが育っていないと先生方は考えた。理由は、入学した子ども達が砂場を前にして発したのが次の言葉であったからである。



「先生、砂の中に入っているの」
たとえ許可しても、子どもは砂の上を通り過ぎるだけ。服が汚れるからである。先生方は、自分たち大人の都合で子どもから経験の世界とそれを表現する言葉を奪う危険性に気付いた。

「先生、砂の中に入っているの」
たとえ許可しても、子どもは砂の上を通り過ぎるだけ。服が汚れるからである。先生方は、自分たち大人の都合で子どもから経験の世界とそれを表現する言葉を奪う危険性に気付いた。

「先生、砂の中に入っているの」
たとえ許可しても、子どもは砂の上を通り過ぎるだけ。服が汚れるからである。先生方は、自分たち大人の都合で子どもから経験の世界とそれを表現する言葉を奪う危険性に気付いた。

「先生、砂の中に入っているの」
たとえ許可しても、子どもは砂の上を通り過ぎるだけ。服が汚れるからである。先生方は、自分たち大人の都合で子どもから経験の世界とそれを表現する言葉を奪う危険性に気付いた。

発問・指示——どこが違うか

静岡大学

馬居 政幸

1 生活科に発問や指示は必要か？
私は、授業において発問や指示が重視される前提に、次のような授業観もしくは研究観があると考える。
授業で最も注意を払うのは、教師と子どもや子ども同士の間で交わされる「言葉」。授業の目標や内容は、教師の「問い」とそれに対応する子どもの「答え」が、言葉を通じて具体化されるはずだからである。それゆえ授業後の研究会では、「文字」で記録された言葉を手掛かりに、指導案にやはり文字で記された目標や内容の実現度や適否を論ずることが主要課題になる。
だが、生活科の研究授業に参加してこのような見方や研究方法を適応できずにとまどった先生方が多いはず。
記録しようにも教師がどこにいるかわからない。やつ見つけても声を聞き取れない。子ども達も様々。大声で話す子もいれば、黙々と作業している子もいる。あぐくのはてに隣の子とも口論をはじめ。教師はそれに気がついていてもニコニコ見ているだけ。
「生活科の授業では、発問や指示に注目してもおかしくないのでは」
こんな感想をもった先生方も多いのでは。私自身もその一人であった。だが次の発問観に出会い考えを改めた。

2 「問いの言葉」から「場を変化させる行為」へ
……発問とは、ある「状況」に向かって教師が働きかけるもの……
「状況」とは、子どもたちと教師との間に生じている場を意味しています。発問とは、そのような「状況」を変化させるために行われる行為なのです。
谷川彰英氏の言葉である（右線は馬居。「教育科学 社会科教育」明治図書 誌上で本年四月から連載中の「往復書簡（谷川一平）」によるリレー討論 社会科授業研究の方法論」の第5回に掲載された論考の一節）。
この連載では、発問研究を巡り極めて刺激的な論争が継続中。その中で、私が特に上記の谷川氏の観点に注目したのは、発問を「問い」や「言葉」ではなく、「子どもたちと教師との間に生じる「場」を、変化させる」ための「行為」として捉えたこと。これなら生活科にも適応できるはず。
生活科は活動が主体。言葉は活動の構成要素であっても全てではない。教師も子どもも身体全体で表現する。
加えて、活動は生き物。シナリオから外れて当然。その場その場の判断が

肝心。重要なのは、目の前で次々と変化する子ども達の活動に応じて、教師がどれだけ自由自在に自分の行為を創造できるかどうか。
教師が前もって用意した問いや答えの実現度、あるいは口から発する言葉にこだわる限り、子どもは自分の活動を創造できないであろう。授業を見る者も、同様の視点である限り、生活科の活動の核を見逃すことになる。
では、子どもたちと教師との間に生じる「場」や「変化させる行為」に注目することと、通常の授業の発問や指示への注目とはどこが異なるか。そのポイントも、私が最近見せていただいた授業をもとに指摘したい。
3 なつともだち
生活科の特色は遊びを取り入れたこと。遊びを核とする授業こそ、生活科と他教科との差が最も顕著になる。
そこで取り上げるのは静岡県藤枝市立青島小学校（成岡桂三校長）の一年三組の皆さんと渡辺温子先生の授業。
単元「なつともだち」の第十時。学習活動案の活動目標には、「土、砂に体ごとぶつかり、それらを使って思い切り遊ぶことができる」とある。特別な目標ではない。図のように土と砂と水で遊ぶこと自体が目的である。

「生活科の研究授業」は どこが違うか



すぐ役に立つのだ!

楽しく勉強になる好評連載

生活科らしい研究授業のやり方・見方のポイント

●先駆者・体験者が語る生活科授業のヒント

◀特集ガイド



比較研究「生活科の研究授業はどこが違うか」

環境づくり・教材開発—どこが違うか

発問・指示—どこが違うか

指導案—どこが違うか

導入とまとめ—どこが違うか

子どもの動かし方—どこが違うか

教師の出番・役割—どこが違うか

評価—どこが違うか

生活科の研究授業の強みはここにあるか

どんな発言やつぶやきが出ればグーか

どんな表情が出ればグーか

どんな活動が出ればグーか

教師へのどんな問いかけが出ればグーか

今から研究授業に取り組む教師へのアドバイス

子どもが目当てを持ち、夢中になって活動する授業設計

学習指導案のここを工夫しよう

生活科における支援のあり方と指導案

学習の成立を見通して

活動別「生活科の研究授業の見方」

見る活動がメインの研究授業の見方

調べる活動がメインの研究授業の見方

作る活動がメインの研究授業の見方

探す活動がメインの研究授業の見方

育てる活動がメインの研究授業の見方

遊びの活動がメインの研究授業の見方

◆生活科視学官中野語録を検討する◆

中野語録を越えて

研究授業をする側からみた参観者への注文

研究授業を見る側からみた授業者への注文

わが県的生活科研究動向

●生活科でこんな能力を育てたい

さりげなく認識力をみがく(2)

○生活科の授業・失敗から学ぶ技術

公開授業から学ぶ

●私の生活科発想物語

秘密基地をつくらう

○新教育体験から語る／生活科実践への注文

生活科というかたち

●生活科の教育現場—つづいて

長野県師範学校附属小学校研究学級の実践(2)

○これは便利すぐ使える生活科カード

コピーOK教材

1年「秋を探そう」・「家族の紹介」

2年「お祭りをしよう」・「おもちゃ大会」

◆グラビアドキュメント—生活科授業のパフォーマンス
 おいしいやきもち 食べたいな 白川 けいこ 1

白石 要一 9

◆NHK生活科番組ガイド—NHK生活科番組グループ 8

◆生活科の子ともつオッチング

笠原 正 10

馬居 政幸 12

高浦 勝義 14

川上 昭吾 16

齋藤 勉 18

清水毅四郎 20

石渡 裕司 22

小野 善寛 24

丹伊田弓子 26

佐藤 康子 28

嶋野 道弘 30

青柳 睦 32

福井 健二 36

奥山 昌一 40

歌川 孝 44

沼沢千佳子 48

松井 義朗 50

藤川 隆 52

若手三喜雄 54

横山 康洋 56

伊藤 博敏 58

片上 宗一 60

京都/愛媛/鹿児島

有田 和正 68

津川 裕 70

大前 宣徳 72

岡野 啓 74

中野 重人 76

安富 篤・白石高士 80

菊池靖志・江田久仁子 84

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

表紙デザイン/飯島英明

生活科 授業研究

10 / 1992
No.17

明治図書

特集「生活科の研究授業」はどこが違うか

- ▶生活科授業者の腕はどこに現われるか
- ▶活動別にみた生活科授業研究の見方
- ▶コピーOK、すぐ使える生活科カード



新潟県教育庁上越教育事務所／五島由美子

秋だからできる体験活動
オールメニュー

*解説は裏ページにあります

定価 620円 (本体 602円)

発行所 明治図書出版株式会社 東京都豊島区南大橋2-39-5
振替東京6-151318番 〒170